

1. はじめに

砂浜は防護・環境・利用の観点で我々が社会生活を送る上で欠くことができない存在。

- 防 護：波を減衰させ、高潮や津波等の災害から人命・財産を守る役割
- 環 境：多くの生物の住処であり、白砂青松等の独特の自然環境・優れた景観を構成
- 利 用：地域社会における人と海の触れ合いの場、祭りやレジャー・スポーツの場等、文化・歴史・風土の形成の役割

2. 砂浜と人との関わりの変換

大規模開発により、山地からの流出土砂量や沿岸漂砂量が変化し、急激な海岸侵食が発生。後追いの的な砂浜管理によりに侵食が止まる砂浜がある一方で、依然として侵食が著しく、対策を必要とする砂浜が多く存在。

3. 砂浜の管理の課題

砂浜管理には様々な課題が顕著化。

- 我が国の砂浜は4,800kmと長大。全国の砂浜の侵食状況が把握できていない。
- 侵食による影響が深刻となってから対策を実施するなど後追いの的な対策を実施している。
- 海岸保全施設として砂浜が管理されていない。
- 気候変動による海面上昇等が砂浜に及ぼす影響が十分に把握できていない。等

4. 砂浜の管理の基本方針

海岸保全の基本的な理念である「美しく、安全で、いきいきした海岸」を次世代へ継承するため、後追いの的な砂浜管理だけでなく、日本国土全体を俯瞰するとともに、流砂系・漂砂系の視点を持って「予測を重視した順応的砂浜管理」の展開を図るべき。

5. 予測を重視した順応的砂浜管理

モニタリングにより、将来的な気候変動や人為的改変による影響等も考慮した上で、流砂系全体や地先の砂浜の変動傾向を把握し、侵食メカニズムを設定し、将来の変化を予測、その予測に基づき対策を実施する、更に、その効果をモニタリングで確認し、次の対策を検討する。こうした、一歩先を見据えた「予測を重視した順応的砂浜管理」を実施すべき。

6. 環境・利用に関する今後の取組

今後の課題として、①環境・利用に配慮した砂浜管理、②地域と一体となった砂浜の利活用 について取り組むべき。

7. おわりに

砂浜の保全に関わる現状の課題に対して、これまでの後追いの的な砂浜管理だけでなく、「予測を重視した順応的砂浜管理」の施策展開の必要性について提言をした。特に、日本のすべての砂浜の健康状態を定期的に確認する「健診的なモニタリング（砂浜の健康診断）」により、必要な砂浜幅が確保できないと予測された時点で対策を行うことが重要である。

